東浦町環境審議会 会議録

会議の名称	平成27年度 第3回東浦町環境審議会	
開催日時	平成28年1月28日（木）午前10時～午前11時30分	
開催場所	東浦町役場 3階 合同委員会室	
出席者	委員	田崎 守人（経済建設常任委員長） 久米 弘（コミュニティ連絡協議会会長） 竹田 正巳（農業委員会会長） 成田 盛雄（商工会会長） 楠本 竜二（イオンモール東浦、代理出席：平原氏） 伊藤 彰近（株式会社豊田自動織機刈谷工場） 遠藤 香代（JAあいち知多女性部東浦地域部長） 水野 善久（教育委員会委員） 藤井 敏夫（愛知淑徳大学非常勤講師） 櫻井 繁（公募）
	事務局	成田生活経済部長 石川環境課長 長坂課長補佐兼環境保全係長 竹内主任 花原主事 春日 俊夫（一般社団法人地域問題研究所）
欠席者	委員	野村 雅代（卵の花くらしの会生活学校運営委員長） 土野 広道（カリモク家具株式会社） 古瀬 裕美（母の会会長）
審議内容	東浦町の環境を守る基本計画【中間見直し版】（案）について	
傍聴者数	0名	
備考		

環境課長：あいさつ

会議の公開の確認（傍聴者なし）

会議録作成のための録音ならびに写真撮影の了承
資料の確認

個人番号連絡様式への記入依頼

生活経済部長：あいさつ

平成26年7月に諮問した環境基本計画の見直しだが、環境行政における方向を定めるため、多岐にわたる内容であった。過去4回の環境審議会を経て、年末にパブリックコメントを実施することができた。前回までの審議会でもいただいた意見に対する見直し部分の説明を行い、町長への答申を行うことができたと考えている。

会 長：あいさつ

平成23年から32年までの東浦町の環境を守る基本計画中間見直しについて貴重な意見をもらい、今回（案）を提出する運びとなった。委員の変更もあったが、各委員の努力もあり良い案ができたと思う。また今回修正しながら、答申を行いたい。

環境課長：平成26年7月2日に町長より諮問を行い、審議を経て案を作成することができた。本日は案について審議を行い、本審議会から町長への答申を行う。

議題1 東浦町の環境を守る基本計画【中間見直し版】（案）について

会 長：審議会の成立を確認

資料に基づき、議題（1）「東浦町の環境を守る基本計画中間見直し版（案）」について、事務局から説明を願い、その後、皆さまからの意見を頂き、盛り込むべき内容、修正の必要の有無等を議論し、答申をまとめていきたい。

事務局：東浦町の環境を守る基本計画中間見直し版（案）のパブリックコメントの結果、意見はなかった。意見募集は、平成27年12月9日（水）から平成28年1月8日（金）までの1ヶ月間東浦町ホームページ、役場ロビー、環境課窓口にて実施した。
第2回環境審議会後、中間見直し案における変更した箇所の説明

- ・ 28ページ基本施策「1-1-1 今ある自然を大切に作る」において、前回までの意見をふまえ、＜現状と将来目標＞「※ 明徳寺川、自然環境学習の森、高根の森等において定点的に

実施している自然観察会で生物種数を確認する。」において、「定点的に実施している」を追記する。また、目標値として減少するものを掲げるのはいかなるものかという意見があり、森林面積、ため池面積を削除した。

- 東浦町が積極的に取り組んでいる内容を具体的にあげること、東浦町らしい計画ができるのではという意見があったため、町が積極的に取り組んでいるオニバスを追記した。30ページ基本施策「1-1-3 緑化を推進する」＜施策の方向性＞「町の花であるウノハナやその他の在来種を活用した植栽を推進し、東浦町らしい緑化に努める。」と追記した。
- 35ページ基本施策「1-3-3 地域の美化を推進する」内の＜取組における役割＞住民の欄において、「ごみのポイ捨てやペットのフンの放置をしないように心掛けるとともに、地域の美化活動等」となっているが、ペットの糞の放置やごみのポイ捨ては行ってはいけないことのため、「ごみのポイ捨てやペットのフンを放置しないこととし、また地域の美化活動等」へと修正する。また、「アダプトプログラムにより公共空間の美化にも参加します。」を「アダプトプログラムにより町の管理する公共空間の美化にも参加します。」と修正を行う。前回の審議会で、＜取組における役割＞において、行政が自らの行動を示すことが始まりではないかという意見があったため、行政の欄に「道路、公園や公共施設の美化を図る」と追記した。また、共通した項目である、52ページ基本施策「4-3-1 率先的に環境保全行動を実施する」＜取組における役割＞行政の欄に、「道路、公園や公共施設の管理を行う」という一文を追記した。
- 37ページ基本施策「2-1-1 大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、悪臭などを防止する」＜施策の方向性＞において、前回意見のあったPM2.5について、既に町が実施していることを明文化し、38ページ（施策推進のためのその他の取組）において、「微小粒子状物質（PM2.5）の観測結果及び情報提供」を追記した。
- 45ページ基本施策「3-2-2 自然エネルギーの導入を推進する」＜将来目標＞において、「自然エネルギーを利用したシステムを住宅、事業所、その他の様々な施設への導入を働きかけ、設置の促進を図る。」と目標を立てた。また、（施策推進のためのその他の取組）に、国や県等の様々な施策について「自然エネルギー活用に向けた補助事業等に関する情報提供、活用推進」と追記した。

計画の公表の方法や、配布の範囲、在り方について

- ・公表の方法として、広報紙、ホームページで周知を図る。冊子は100部配布し、概要版200部は環境に関する団体及び公害防止協定締結事業所等に配布し、残りは必要時に随時配布する。
- ・住民への周知としては、広報紙で特集を組み、シリーズ化して掲載し、住民に役立つ情報や取組における役割等をホームページで随時公表する予定である。

会 長：事務局より東浦町の環境を守る基本計画見直し（案）について説明があった。これについて意見、質問はあるか。

委 員：前回までの会議録がホームページに掲載されているにもかかわらずパブリックコメントがないというのは残念である。

47ページ基本方針「4－1環境学習の充実を図る」の掲載の順序について

- ・「4－1－3環境に関する情報を共有化する」が最初であり、それに基づいて具体的な学習や環境教育を進めるという順序の方が良い。53ページ「計画の推進方法」は現状の書き方で良いが、47ページは、53ページと順序が違っている。情報を共有化するような形で発信をして、それに基づいて学習や環境学習が展開されるという方が良く考える。4－1－3を最初にして、4－1－1と4－1－2を繰り下げてはどうか。

事 務 局：現在の計画の流れを受けた施策の順序となっている。順序を変えることによって内容に不備等が出てこなければ修正を行える。

委 員：弊害がないようであれば順序を変えた方が良く思う。

事 務 局：ただ、4－1－1は基本施策であり、基本施策の上に基本方針がある。4－1は基本方針が「環境学習の充実を図る」であるため、先に「学習の機会を増やす」というのを打ち出している。環境に関する学習機会を増やすことを説明した上で、環境教育を推進する。その後、情報発信する、情報共有するという形で説明した方がわかりやすいのではないかと考えている。

会 長：他に意見はないか。

委 員：とてもよくできた計画であるが、少し書き加えてはどうか。

- ・37ページ大気汚染＜施策の方向性＞に、PM2.5について書かれているが、22ページの目標でも少し触れた方が良く。目標2

の文中に、「また、従来型の公害でない有害化学物質」と書いてあるが、これに「や微小粒子状物質（PM2.5）による健康の影響が懸念されるようになり」を加えた方が良いと思う。ここは未来形で書いたが、ダイオキシンや環境ホルモンは少しおさまってきており、現在の住民の不安、国民的課題として、PM2.5が注目されている。PM2.5の濃度が高まったら緊急に警報を出すということになっており、住民が関心を持ち健康に対して不安を持っている汚染源として注目されているので、それを「有害物質やPM2.5による」という表現で入れたら良い。

- ・ 目標3、エネルギーとものをなるべく循環させて有効利用していこうという考え方は、良い整理をしていると思う。地球温暖化対策とエネルギーを大事する、廃棄物を出さないで循環型社会にすると、別々に整理するのが一般的だが、これらを一つのカテゴリでまとめるという整理の仕方は、県内の他の環境基本計画でも少ないので、非常に良いと思う。だが、表現を少し変えることにより、その主旨が良くなるので提案する。「この問題解決のためには、地域住民と将来世代が共有している地球の資源を大切にしていこう」との部分に、エネルギーが入っていないので「資源やエネルギーを大切に」とした方が良い。大切に使うとは、必要不可欠な量だけを使うということであり、エネルギーも資源と同じなので、エネルギーも入れた方がよい。リユースが、ごみをできるだけ減らすという、ごみのカテゴリになっているので、「ものやエネルギーは、繰り返し使えるものは何度でも使う」とした方がよい。これは、エネルギーを段階的に利用するカスケード利用というものがあり、とても高温のものを電気エネルギーに変え、次の排熱をまた利用するものである。したがって、「繰り返し使えるものやエネルギーは何度でも使い」という表現にした方がよい。また、「資源として有効利用する」を「資源やエネルギーとして有効利用する」と変えて、エネルギーとものを循環させるという一つのカテゴリで捉えることで、すばらしい整理になる。
- ・ 35ページ〈現状と将来目標〉において、実績が28.9%で目標を30%にしているが、その下の説明で「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答する人が概ね2割増えることを目指すと書いている。これは「約1割増える」ではないか。
- ・ 41ページのリサイクル・リユースの部分について、大府市ではバイオマスタウン構想を進めており、既にバイオマスを使った資源再生のプラントが稼働しようとしている。また、半田市でもバイオマスタウンの指定を受けてプラント整備を予

定している。取組における役割として、事業者に対し、近隣市町ではバイオマス活用の動きがあるという事を十分に周知し、そういう場所に有機物を持って行くよう薦める。単に焼却処理するのではなく、リサイクル、リユースを事業者側でも実施することが必要。一般廃棄物でも進めることが望ましいと思うが、これは次の課題なので、施策を具体化する際に町の課題として念頭に置いた方が良い。東浦町の中だけで考えるのではなく、周辺の市の動向も踏まえて展望をもって対応を考えることを期待する。

会長：41ページバイオマスについては、今後の課題という事でそのままにするが、22、23ページについては、指摘のあった通りに修正する。

事務局：35ページは概ね1割と修正する。

会長：これらの意見を踏まえて案を修正して、答申案の作成を行いたい。以上でよろしいか。

委員：異議なし（拍手にて賛同）

会長：答申の付帯意見として3点提案する。「1 東浦町が目指す環境の実現に向け、町民、事業者と更なる連携・協働を図り、環境保全及び創造に関する取組みを効率的に実施してください。」「2 社会情勢や環境の変化を迅速に捉え、新たに生じる課題に対応した施策を展開してください。」「3 計画の進捗状況を把握し、評価を的確に行うとともに、関連する諸計画との連携を図りながら、必要に応じて適切な見直しを実施してください。」という3項目を付け加えて答申をしていきたい。この内容でよろしいか。

委員：住民への周知徹底をどこかに入れるべきではないか。

副会長：進捗管理において、100%情報を公開すると言っているので、進捗管理をしっかりと行っていけば良いのではないかと思う。進捗管理の中に住民への周知が入っているため、あまり具体的にしすぎるのもどうかと思う。

事務局：今の提案を踏まえて、付帯意見の1を見直し、「町民・事業者へ周知し、更なる協働・連携を図り、環境保全及び創造に関する

取組みを効率的に実施してください。」という内容にする。

会 長：答申の付帯意見について、このように修正するがよろしいか。

委 員：拍手にて賛同

会 長：答申書の作成をするため、しばらく休憩とする。

《会議再開》

会 長：答申案の内容について、これでよろしいか。

委 員：拍手にて賛同

会 長：副町長へ答申を行う。

東浦町の環境を守る基本計画における中間年度における計画の見直し内容について（答申）

平成26年7月2日付東環第516号にて諮問のあった「東浦町の環境を守る基本計画における中間年度による計画の見直し」の内容について、本審議会において慎重かつ十分な審議を重ねた結果、本案は妥当であると認め、下記の付帯意見を付して答申いたします。

- 1、東浦町がめざす環境像の実現に向け、町民、事業者へ周知し、更なる連携・協働を図り、環境保全及び創造に関する取組みを効率的に実施してください。
- 2、社会情勢や環境の変化を迅速に捉え、新たに生じる課題に対応した施策を展開してください。
- 3、計画の進捗状況を把握し、評価を的確に行うとともに、関連する諸計画との連携を図りながら、必要に応じて適切な見直しを実施してください。

副 町 長：趣旨を深く理解し、実施に向けて努力する。

会 長：議題2のその他について、事務局から何かあるか。

事 務 局：その他についての報告はない。

会 長：長時間にわたる審議に感謝する。

平成27年度第3回東浦町環境審議会を終了する。

平成28年度第1回環境審議会は7月に開催する。